



### あしたの幸福 《理論社》 いとうみく/著



中学2年生の雨音はある日、一緒に暮らしていた唯一の家族の父親を事故で亡くしてしまいます。親戚も頼れず、施設にも行きたくない雨音。そんな矢先、父と生後間もない雨音を置いて出て行った実の母親から「お困りでしたら、わたしと住みますか？」という連絡がきます。

【913/イ】 雨音は母親と同居することを決意します。父方の祖母には「欠陥人間」と称されていた母親は、一体どんな人物なのか？血のつながりはあるけれど、共通の思い出をもたない親子の共同生活が始まります。

登場人物全員が過去に傷ついた経験をし、それでも今をより良く生きていくために日々もがいています。

中学生という年齢は、法律的にはまだまだ子どもとして扱われますが、親と子の一対一の関係の中では、大人と同じように扱われることが増えてきます。図書館の読者のみなさんの中にも、この中途半端な立場に悩んでいる人がいるかもしれません。この本を読むことで、解決の糸口を見つけられるかもしれません。

### 直感とちがう数学

《Gakken》葉一/監修、タカタ先生/原案、カシワイ/絵

数学のテストで、どうしても解き方がわからなくて問題に出ている数字からこれくらいだろ！と予想して答えたことはありませんか？数学が大の苦手だった2号にはよくありました。そして、その度に悲惨な結果に終わっていました…。でもそれは当然だったんだなとこの本を読むと思います。

1クラス35人の生徒の中に1組でも同じ誕生日の生徒がいる確率はどれくらい？とか、99%が水分でできた1000gのスイカ、水が抜けて水分が98%になった時、スイカの重さは何gになった？など、感覚で正解に近い数字が出せそうな数学の問題が全24問。ぜひ直感だけで答えてみてください。驚きの答えが待っています。何でそんな答えになる？という疑問も解説を読めば納得。人間の直感がどれだけ当てにならないかということと、数学の楽しさが味わえます。【410.4/千】



特に読んでおいてもらいたいのが、ゲームのガチャを題材にした確率の問題。数字を鵜呑みにすると思わぬ損をするかもしれない、そんな怖さもわかる1問です。



### CHOCOLATE DESSERT チョコレートで作る極上デザート 《成美堂出版》 小山 千尋/著

この図書館が発行される頃には2月ですね。2月といえばそう、バレンタインデー！義理と本命の激しい争いに、友チョコという新派閥が登場したのは、私が大学生の頃からですかね…ままだれにも縁のない人生(現在進行形)ですが(泣)

私の人生はどうしてもよくて、チョコで何か作るならこの本を参考にしてはみてはどうでしょうか？写真も交えつつ、所々にポイントも書いてあるこの本を見ながら作れば、準備はちょっと大変かもしれませんが、その分立派なお菓子が作れる…かも？！



料理が作れなくても、こういうレシピ本は見ただけでもおなががるもの。違う料理が見たくなったら、2Fの10~12番の棚に料理の本が取り揃えてあります。

【2F ポピ H596.6/千】



### 阪急電車 《幻冬舎》 有川 浩/著



2月、3月のイベントといえば、バレンタインとホワイトデー！！

ということで、今回は恋愛要素が強めの小説を紹介します。

この作品は、実際に関西にある阪急電鉄今津線の車内を舞台にした、連作短編集です。一駅ごとに主人公が代わり、同じ電車に乗っている乗客それぞれの人生を垣間見ることができます。

車内での偶然の出会いや出来事をきっかけに、恋の始まりから恋の終わりまで、様々な恋愛の瞬間を味わうことができます。この本を読む前と後では、電車に乗るときの気持ちがきっと変わるはず。電車内での「あるある」も登場するので、特に電車通学している人にオススメです。

ただし、この小説が書かれたのは2008年。今よりもずっと電車内でスマートフォンを使う人が少なかった頃なので、みなさんには少し馴染みのない車内の光景が広がっているかもしれませんね。



学校では教えてくれない自分を休ませる方法  
 ≪KADOKAWA≫ 井上 祐紀／著



【498/カ】

「今日はなんとなく学校行きたくないな」、「授業の発表、嫌だな。サボろうかな…」。  
 一度くらいそう思ったことがある人はきっと多いはず！「あわよくば明日、熱でも出ないかな〜」と私も願ったことがありましたが、幸か不幸か、願いが叶うことは1度もありません

でした…。

この本では、「休みたい」と思う自分の、自己分析の仕方が詳しく書かれています。自分がなぜ休みたいと思うのか、どうすることで自分を本当に休ませることができるのか、順を追って分析を進めることにより、自分自身の思考の癖についても知ることができる本となっています。

進級によるプレッシャーや、クラス替えによって周りの環境が変化したりと、春はストレスを感じやすい時期だと思います。1年を走り抜けるために、まずは自分を休ませる方法を知ってみるのもいいかもしれませんね。

答えは風のなか

≪朝日出版社≫ 重松 清／著、ミロコマチコ／絵

スポーツ万能な中村くんと仲良くなりたと思って「ぼく」。席替えてその中村くんと隣の席になったぼくは、中村くんがシャーペンの芯がなくなって困っていたので分けてあげた。中村くんはぼくのことを「いいヤツだ」と言ってくれて嬉しかったけど、それから中村くんはぼくに色々頼みごとをするようになる。しかも、中村くんの友達まで同じようにぼくに頼んでくるようになった。（「いいヤツ」より）

主に子どもたちの視点で、誰もが直面するかもしれない日常の中の胸がモヤモヤとする出来事や、今の世の中が抱えている社会問題をリアルに、けれど優しく描いた10の物語から成る短編集です。「答えは風のなか」という本の題名のとおり、掲載されている物語の多くは作中で答えがハッキリとは提示されません。もしみなさんが主人公と同じ立場になったら、どんな答えを出しますか？

世の中の様々な事情が分かるようになってくる中高生のみなさんに、一度は読んで、そして考えてみてほしい作品です。



【F913.6/シケ】



アンナ・カレーニナ1・2  
 ≪光文社≫ トルストイ／著

【2F ポピ B983/トル/1・B983/トル/2】

みなさんには「推しの俳優/女優」っていますか？

私はアミューズ所属(R5/2/17 現在)の渡邊圭祐さんが推しです。あまり紙幅は割けないので気になったら調べてみてください…イケメンが出てくるので…

さてその渡邊圭祐さん、2月〜3月に劇に出演されていたんですが、その劇の原作こそがロシアの名作文学、『アンナ・カレーニナ』なのです。

舞台は1870年代のロシア。社交界の花アンナは、夫がいながらも、青年将校ヴロンスキーとの恋に落ちてしまいます。アンナの兄嫁の妹、キティはヴロンスキーに思いを抱いていましたが、無視されて病を患い、自分が一度結婚の申込を断った地方地主、リョーヴィンと結婚します。

アンナとヴロンスキー、キティとリョーヴィンという二組の愛はそれぞれどのような結末を迎えるのか…

ちなみに、渡邊圭祐さんはヴロンスキー役でした。



バカ日本語辞典  
 ≪技術評論社≫ 谷口 一ノ刀／編著



今ではきちんとした意味で使っている言葉でも、小さい頃や実は最近まで、まったく違う言葉として認識していたことはありませんか？

そんな、きっと誰にでもあったであろう、全然意味をはき違えた日本語を集めたのが今回紹介する図書です！タイトルにあるように、この辞典では日本各地(!?)のおバカが、各々思い描いている意味でその言葉を紹介しています。

辞典ときくと堅苦しい印象があるかもしれませんが、この辞典は過去に勘違いしていた意味を載せている、「正しくない」辞典なので、楽しく最後まで読めることでしょう！中には絶対に「これ自分もしてたな……」という言葉もあるはずですよ(私は1つどころじゃない数ありましたよ)。



### 恋愛問題は止まらない 《小学館》 吉野 万理子/作



「野球部員は来週までに丸刈りにしないとイケない」という噂から始まる、ある中学校の恋愛問題。もう一つの「学校一の人気者・上里くんと、生徒会長の小城さんが付き合っていて、最近別れたらしい」という噂も絡まり、上里くんのファンを始め、学校中の生徒がそれぞれの恋と友情について悩んだり、喜んだりする様子が描かれています。章ごとに主人公が違うので、前章の主人公が意図した通りには次章の主人公に言葉が伝わっていなかったり、それぞれ相手を思い合っているのに上手くいかなかったりと、人間関係の難しさ・じれったさを読者が感じることでできる作品となっています。

ティーンズの子もきっと、日々、人間関係の難しさを感じていると思います。でもこの本は基本的にポジティブに、ハッピーエンドで終わるので、登場人物の悩みに共感しつつ、元気がもらえんと思います！

個人的には上里くんと小城さんの、中学生とは思えない人間のできっぷりに感心しました。あんな風に考えられる人になれたらなぁ〜。

【913/ヨ】

### さばの缶づめ、宇宙へいく 《イースト・プレス》 小坂 康文/著、林 公代/著

宇宙飛行士や天体など宇宙に関する本はティーンズコーナーでも人気ですが、今回紹介するのはその中でも宇宙食にまつわる本。福井県の高校が、世界で初めて高校生による宇宙食の開発に成功した驚きの実話です。

日本最古の水産高校ながらいつ潰れてもおかしくない程の教育困難校となっていた高校が、新しく赴任した教師の熱意によって変わっていき、生徒がもらした一言を切っ掛けに高校で製造するさば缶を宇宙食にすることに挑戦。多くの困難を乗り越えて、実際に宇宙でさば缶が食べられるまでの14年の活動を追ったノンフィクションです。次の代へと夢を引き継ぎながら挑戦し続ける高校生と、それを見守る周りの大人たちの熱い思いに胸打たれます。

すごいのが誰かに強制されたのではなく、生徒たち自身の興味によって自然と開発が続けられていったということ。「諦めないこと」と「好奇心」の大切さを感じさせられる一冊です。



【667.9/サ】



### 落語キャラクター絵図 《メイツ出版》

美濃部 由紀子/著 辻村 章宏/イラスト

唐突ですが、落語ってご存知ですか？

落語家が主人公の漫画には『昭和元禄落語心中』や『あかね噺』があり、演目『死神』は米津玄師さんが歌にしていたので、全く知らないという人はそんなにいないと思います。

でも知ってるだけでよくわからないという人におすすめなのがこの本です！落語40席をあらすじとイラストでわかりやすく解説しているので、初心者でも理解しやすくなっています。

より知りたくなったら、AV資料に演目を録音したものがあるので聞いてみてください！

ちなみに私風邪気味なので、どなたか私が寝ている時に枕元で「アジャラカモクレン テケレッツノパー」って言った後二回拍手してくれませんか？



【ポピ N779.1/ラ】



### 赤毛のアン 《講談社》

L.M.モンゴメリ/作、村岡 花子/訳、HACCAN/絵

ベタかもしれませんが、あえて紹介します！読みたがる名作「赤毛のアン」。わたしはレディになってから読みはじめてハマりました。アンの第一印象は、めっちゃしゃべるなぁ…！でした（笑）空想好きで元気いっぱい、たくさん失敗を経験しながらもまっすぐに成長するアンに夢中になりました。プリンスエドワード島の美しい自然の中で、とにかくよく遊び、よく学ぶ。そんなアンの姿がとても清々しくて私もがんばろう！と思わせてくれます。

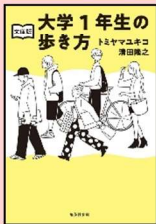
あわせておすすめなのが、「赤毛のアン」を翻訳した村岡 花子さんの伝記です。アンと村岡 花子さんには不思議と似ているところが多いのです。「赤毛のアン」の翻訳を始めたのは第二次世界大戦の最中、空襲から家族と翻訳の原稿を守り、出版されたという背景を知り、さらに思い入れが強くなりました。



【子ども 933/モ】 【子ども 289/ム】

### 文庫版 大学1年生の歩き方

《集英社》 トミヤマユキコ、清田 隆之／著



夏休み。ティーンズのみなさんの中には、大学受験に向けて勉強を頑張っている人もいることでしょう。でも、実際の大学生の生活ってどんな感じなのだろう？と思っている人も多いはず。

この本では、大学1年生の1年間を【B377.9/タ】なぞっていく形で、それぞれの時期のあるあるや、気を付けるべき点を、著者の学生時代の経験や大学教員としての目線からアドバイスしてくれています。

また、巻末に収録されている「文庫版アフタートーク」も必見！著者二人が対談形式で、“隠れ不器用”な人におすすめの30タイトルを紹介してくれているのですが、アフタートークとは思えないくらい紙面を割いて、様々な本やコミックをおすすめしてくれています。大学生活について知れるだけでなく、次の読書にまでつなげてくれる本となっています。

これから大学生になる人、かつて大学生だった人、今の大学生について知りたい人、どんな人が読んでも楽しめる一冊です。

### ひゃっか！

《文響社》 今村 翔吾／著

花を愛する女子高生・大塚春乃は、花屋を営んでいた祖父を亡くしてから落ち込んでいる祖母を元気づけるために、「全国高校生花いけバトル」決勝大会出場を目指していた。しかし、出場に必要なパートナーがなかなか見つからない。ある時、家が大衆演劇の劇団である転校生・山城貴音が華道の経験者と聞き、一緒に出場することを頼むと、学校の成績が悪い貴音は勉強を教えることを条件に承諾。こうして、2人の挑戦が始まった。

実在する大会を題材に、花に向き合う高校生たちの姿を爽やかに描いた王道の青春小説です。主人公2人が本当に真っ直ぐで、予算がなくて練習用の花を集めるのにも苦労したり、思わぬ妨害が入ったりと、次々に起こる困難に立ち向かう2人を心から応援したくなります。

見どころはやっぱり、大会の様子ですね。花を活ける様子などの描写が丁寧で、実際に見たことが無くても、様子がしっくりと頭に浮かんできます。実際の大会にも興味が湧いてくること間違いなし。



【F913.6/イマ】



### ラノベ古事記

《KADOKAWA》 小野寺 優/[訳]著

日本のはじまりを記した日本最古の歴史書「古事記」がラノベになった本です。

きっと一度は聞いたことがある「因幡の白兔」「やまたのおろち」などの日本神話はもちろん、神々のエピソードをラノベ風現代語訳で読むことができます。かわいいイラストの関連図もあるのでとっても読みやすいし、わかりやすいです！

神社の立て札に神社建立の経緯などいろいろと書かれています。ラノベ古事記のおかげで、読める…読めるぞ…！！と、なります。(たぶん)

神様も恋愛したりケンカしたり、身近に感じられておもしろい、おすすめの一冊です。



【913.2/ラノ】



### 哀しい予感

《角川書店》 吉本 ばなな／著

優しい家族の中で幸せに暮らしている19歳の弥生。彼女にはなぜか幼少期の記憶が全くない。そのため、時々心の中で何かが欠けていると感じたり、いてもたってもいられない気持ちになったりすることがあった。また、弥生には古い一軒家で暮らす変わり者のおばがいた。あるビジョンが頭を横切った弥生は、ありえない気持ちと後戻りが効かないんじゃないかという不安を抱えながらも家出をし、おばの家に向かった。忘れてしまった記憶の中に隠された真実とは…。

おばとの関わりを通して、無くしていた記憶を自らの手で探していくお話です。まだまだ暑い日が続きますね。初夏の物語なので夏に読むのにもぴったりです。心温まり、少し哀しく、甘酸っぱい。比較的ページ数が少ないので忙しい夏を過ごしている方や普段あまり本を読まない方にもおすすめです。

【ポピ B913.6/ヨシ】





母の国、父の国

《さ・え・ら書房》 小手鞠 るい／著



日本人の母とドミニカ国出身の父をもつ主人公の笑美理（えみり）は、日本で幼い頃から人種差別を受けて育ちました。何度も人からの裏切りを経験し、絶望を味わい、それでも負けじと懸命に生きてきた笑美理でしたが、高校生のときのある出来事によって、とうとう心を閉ざしてしまいます。絶望から立ち直るまでを、大人になった笑美理の視点で描いた物語です。

【913/コ】

この本の作者である小手鞠るいさんは、日本で育ち、現在はアメリカで生活しています。日本においてマジョリティ（多数派）として生活していると気がつきにくい、日本での差別や社会的な問題点を、物語を通してわかりやすく教えてくれます。

幼いころの後悔や、選択しなかった道を if として考えることは、きっと誰も経験があることでしょう。挫けても、裏切られても、自分の居場所を探し続けた笑美理の強さと、ドミニカ国の風景描写の美しさが印象的な物語です。強くありたいと思っている人にぜひ読んでもらいたい一冊です。

街角図鑑

《実業文日本社》 三土 たつお／編著

右下の本の表紙画像の真ん中にある、よく工事現場なんかにある三角のアレ、なんて呼んでますか？ カラーコーンって思った人が多いのでは？ 実はカラーコーンは商品名。アレ全般の名称は、パイロン（他に三角コーンなど）の方が正確なのだそうす。

パイロンを始め電柱やタイヤ止め、マンホールなど街中でよく見かける様々なモノの種類や役割、部分の名称までまさに図鑑のごとく徹底解説。街で目にするアレの意外な豆知識が詰まっています。面白いのが、本当の生き物について解説するかのように書かれた説明文。クスッと笑えて、モノたちへの著者の深い愛情が伝わってきます。読み終えた後には、今まで特に意識していなかった街中のモノたちが気になってくること間違いなし。文字通り景色の見え方が変わる一冊です。

ちなみに、まだ素人の2号では断言できませんが、表紙のパイロンの種類は「スコッチコーンA」だと思います。見分け方が気になる人は、ぜひこの本を手にとってみてください。



【049/マ】



湖の中のレイチェル

《小学館》 K.R.アレグザンダー／作、  
金原 瑞人／訳、小松 かほ／訳

レイチェルとサマンサは親友でした。しかし、一年前のある出来事をきっかけに仲たがいでしてしまいます。両親のケンカ、自分より優秀な妹、むしゃくしゃした気持ちを抑えられないサマンサは、湖にたどり着きます。不気味なうわさがあるため誰も近寄らない場所なのに、そこにはレイチェルがいたのです。溜まった怒り、いらいらが爆発し、サマンサはレイチェルを湖に突き飛ばしてしまいます。レイチェルは、浮かんでできませんでした…。

しかし次の日、学校へ行くと、いるはずのないレイチェルが立っているのです…。怪物のように変わってしまったレイチェルの恐怖と自分のしてしまったことへの逃れられない罪の意識、終盤明らかになる仲たがいのきっかけとは？

こわすぎて続きが気になるので、どんどん読み進められます。忘れられない一冊になりそうです…。




【933/ア】



かわいい美術に会いに行こう  
《マイナビ出版》

皆さんは「かわいい」と聞くと何を思い浮かべますか？

私はまず猫が浮かびます。  しかし「かわいい」と一口に言っても「愛おしい」「おしゃれ」「ゆるかわいい」などいろんな「かわいい」がありますよね。

この本では「かわいい」というキーワードを入口に、日本美術、西洋美術、現代アートなどさまざまな美術の魅力を紹介しています。「かわいい」作品に出合える美術館がたくさん登場するので、きっと皆さんの好みの「かわいい」に出合えるはず。この本を読んで芸術の秋を堪能してみませんか？

私は、世田谷美術館、東京都現代美術館、ポーラ美術館、三菱一号館美術館が気になりました！



【1Fレ7 706.9/カ】

リンボウ先生のなるほど古典はおもしろい!  
 《理論社》 林 望／著, 武田 美穂／絵



この本では、『源氏物語』や『平家物語』、『枕草子』といった、古典を学ぶ中で一度は目にするであろう超有名作品の面白さを、分かりやすく解説してくれています。例えば、著者は『平家物語』は「別れの文学」であるとして、登場人物の性格や生き様を、それぞれの最期の場面の描き方を対比することから考察しています。

以前あるドラマで、古典を学んでも、過去の人と話すことはできないから学ぶ必要はないのではないか、というようなセリフがありました。確かに、当時の人と話すことはもうできませんが、文字として残っているものは、今でも読むことができます。昔の人がどのように物事を感じ取り、考え、生活していたのかを知るうえで、古典を学ぶことは決して無駄ではないと言えるのではないのでしょうか。

そして、2024年は『源氏物語』の作者・紫式部が主人公のドラマが始まることもあり、古典が再注目されることでしょう。古典の何を楽しめばいいのか分からない、と思っている人にこそおすすめの一冊です。

【910.2/ハ】

【F913.6/アサ】

読書嫌いのための図書室案内  
 《早川書房》 青谷 真未／著

読書嫌いなのに楽しんだからという理由で図書委員になった高校2年生の荒坂浩二だったが、司書の先生に任命され、読書好きの藤生蛸と共に廃刊した図書新聞を再刊することに。紙面に載せる読書感想文の執筆を依頼していくが、それぞれの人物から奇妙な条件を提示されてしまう。理由を探る内に2人は、感想文に込められた想いや昔学校で起きた事件に直面する。

感想文に隠された謎を解決しながら、極度の読書嫌いな荒坂と読書以外では引っ込み事案すぎる藤生が変わっていく青春ミステリー小説です。作中では本の解釈の仕方について話す場面が多いのですが、色んな考え方に触れられて、それが面白いです。特に藤生の独創的な解釈は、本から受け取るメッセージの自由さについて考えさせられます。本の解釈次第で落ち込んだり、逆に勇気を貰えたり、読書の楽しさと奥深さを再認識させてくれた一冊でした。

読書好きはもちろん、題名の通り普段本を読まない、読書をする意味がわからない、そう思っている人にも手に取ってほしい物語です。



【B913.6/アオ】



何者

《新潮社》 朝井 リョウ／著

SNS アカウントのプロフィールって性格が出ますよね。なんか意識高い系だなとか、この人センスいいなとか。プロフィールや、つぶやきから感じとれるものがあります。

主人公の拓人は就活中の大学3年生。同居しているバンドボーカルの光太郎と、留学から帰ってきた瑞月、その友達の理香とともに就活の情報交換をするようになります。協力して問題を解くWebテスト、エントリーシートの作成、たくさんの肩書きが並べられた自分の名刺。それぞれが必死に就活する中で、瑞月は家庭の問題で、なんとしても安定した企業に就職しなければならなくなりました…。

それぞれの本音がツイッターを通して見えてくる怖さとリアリティがおもしろい本です。



【F913.6/アサ】



カラフル

《文藝春秋》 森 絵都／著

「おめでとうございます、抽選に当たりました！」前世の罪により輪廻のサイクルから外され、もう二度と生まれ変わることができない主人公のぼくの魂が天使業界の抽選にあたり、再挑戦のチャンスを得る。

再挑戦とは、ある一定の期間、下界にいる他人の体にホームステイをし、もう一度下界で修行を積むこと。そして期間内に自分の罪を思い出し、あやまちの大きさを自覚することができればホームステイは終了する。ぼくが生前に犯した大きな罪とは？

主人公が他人の体にホームステイをし、人生の再挑戦をする物語です。自分の人生だからこそ、物事の悪い面ばかりが大きく見えてしまうことや、不安で一步を踏み出せなくなることもありますよね。人生に不安を感じているティーンズにぜひ読んでほしい一冊です。



【B913.6モリ】